

市長新春座談会 市内3大学と考える

「元気な狭山」を目指した人づくり・地域づくり 大学の持つ知識と学生の力を地域と行政へ



狭山市長 仲川 幸成

市長 皆さん、明けましておめでと
うございます。今
年は、狭山市駅西
口再開発事業の工
事がいよいよ着工
する記念すべき年
となります。そのよ
うな年の幕開けに
ふさわしく、本日は
大変お忙しい中、市
内3大学の学長・理
事長にお越しいた
だきました。

昨年、市が策定した第3次生涯学習基本計画では、市民の皆さんがそれぞれの立場で、花を咲かせるための学びを支援する方向性を示したところであり、その計画を推進するためには、市内3大学との連携が欠かせないと考えています。昨年は、学校現場にとってさまざまな出来事を取り上げられた年でもありました。今日のこの場が、将来を担う子ども達に夢を与えられるようなそんなきっかけになれば嬉しいと考えています。ど

うぞよろしくお願いたします。

清水 明けましておめでとござ
います。本日は3大学をお招きい
ただき、大変ありがとございま
す。開かれた大学づくりが大き
なテーマとなっている昨今、本
日は地域社会との関わりや生涯
学習につながるお話ができると、
大変楽しみにしてまいりました。
どうぞよろしくお願いたします。

清水 司 氏

東京家政大学理事長

昭和23年早稲田大学理工学部卒業。同大学教授、総長、日本私学振興財団理事長、東京家政大学学長などを経て平成11年から現職。この間、旧文部省中央教育審議会会長、東京都教育委員会委員長などを歴任。平成9年文化功労者表彰。同12年勲一等瑞宝章を受章



開かれた大学づくりに向けて 各大学の視点を活かした取り組み

市長 それではまず、それぞれの大学の特色、また、地域との関わりなどをご紹介いただけますか。

清水 東京家政大学の狭山校舎は今年で20周年、板橋校舎は125周年を迎え、それぞれで節目を迎えました。現在、文科省が推奨している、開かれた大学づくりを本学でも推し進めるため、狭山校舎に「地域連携協力推進センター」を設けて、公開講座や市民講座、インタビューシップなどの拠点とし、市民の皆さんとつながりながら、学生教育にも活かしております。

また、県西部の西武線・東武東上線沿線の18大学では、彩の国大学コンソーシアムを設立しました。「コンソーシアム」とは、連携を意味します。各大学が協力体制を築くことで、教育研究の高度化を図り、

学生により価値が高い学習活動の場を提供するのをはじめ、社会の成熟化にももたらす学習需要などに対応するため、生涯学習や産官学の地域交流の推進などを図っています。

18大学が特色を出し合いながら、学生の他学での単位取得だけでなく、現在は、川越市内の公民館を会場に「現代社会の諸問題」をテーマとした公開講座を市民対象に行っています。これら協力体制のもと、それぞれの大学が特色を出し合い、市民の皆さんや市のニーズに応えていきたいと考えています。

市長 素晴らしい取り組みが、県西部でなされているのですね。では、佐藤学長は、いかがでしょうか。

佐藤 当学園は、所沢で開学し昨年創立40周年を迎え、西武文理高校は、昭和56年に狭山キャンパス



教育とまちづくりを視点を語る3大学の学長・理事長と市長
「元氣な狭山をみんなで作る」ために3大学の協力は欠かせません

佐藤 英樹 氏

西武文理大学学長・理事長

昭和35年東京農業大学農学部卒業。昭和50年学校法人文理佐藤学園理事長に就任。平成11年西武文理大学学長に就任。この間、財団法人日本カナダ教育文化交流財団理事、国民体育大会候補選手強化特別委員、日本ホスピタリティ推進協会理事などを歴任



市長 商業の活性化に大学や学生の協力が得られる…まさにまちの活性化につながるご意見だと思います。高橋学長はいかがでしょう。高橋 武蔵野学院は大戦前にこの地に来たわけですが、地元の方からは、「山の学校」と呼ばれ、昭和56年に短期大学を、平成16年に大学を開学し、今年の4月には大学院が新たに加わります。地元の方々とのお付き合いが、私たちの強みといっ

として開校しました。地区の皆さんをはじめ、市民の皆さんには本当にお世話になっていると感謝しています。それにどう恩返しできるか…ともに歴史を創っていく立場として、「まちづくり」の視点を忘れてはならないという気持ちがあります。また、市内3大学がそれぞれの特徴を活かしてこそ可能となる生涯学習を進めていくべきだと考えます。大学には、「人材」という財産があります。その財産を市に提供できたら、これほど嬉しいことはありません。さらに、小・中学校、高校と連携して、市内の教育力のアップを図りたいと考えます。また、本学の特色でもある「サービスマ」を活かして、商店街の活性化などにもお役に立ちたいと思っています。

市長 それでは、各大学の精神や理念、また、狭山で学生生活を送る学生たちの表情について、語っていただけますか。清水 私どもの大学は、明治14年に「和洋裁縫伝習所」として設立され、戦災にあつて板橋に移り、戦後の教育制度とともに、人間生活中心の教育、その教育を進める教員の育成に力を入れてきたわけです。そして昭和61年、国際化・情報化・高度経済成長を迎え、新たに狭

てもいいかもしれません。地元の方を客員教授としてお招きしたことをはじめ、狭山ケーブルテレビでの情報発信や狭山市国際交流協



高橋 暢雄 氏

武蔵野学院大学学長・理事長

平成元年慶應義塾大学商学部卒業。平成6年から武蔵野中学校、武蔵野高校に勤務。平成11年学校法人武蔵野学院理事長、武蔵野中学校校長、同高等学校校長、武蔵野短期大学学長に就任。平成13年慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得。平成16年から現職

山校舎・文学部を設けました。女性が専門性を持ち、社会人として・家庭人として、立派に自律でき、時代の変化に即応できる女性を育成し、世に送り出すため、これまで努めてきました。狭山での学生たちの姿といえば、市内の大学生を小・中学校に派遣する、狭山フレッシュ支援事業に参加し、教育ボランティアとして授業をお手伝いしたり、児童や生徒たちの遊び相手や相談相手として活

会との連携、そして、市の友好交流都市・こしがし市ともお付き合いしています。また、狭山茶の講座や、市立博物館で焼き物の展覧会を開催するなど、地元だからこそその恩恵を受けていると、常に感じていています。その恩返しをしたいと心掛けていますが、市民の皆さんからのお手伝いや提案が私たちを支えてくれているのです。地元とのつながりは財産ですね。市長 産学連携は定着しつつありますが、それ以上に狭山市は、教育面における皆さんの大学との連携が素晴らしいと改めて感じます。本当にありがたいことです。

社会人として世に出る前に…
地域との関わりで広がる・深まる精神 スピリッツ